

発表

グループごとに出てきた課題と魅力、課題を魅力にポジティブ変換した結果を踏まえて発表しました。

1 班

地域のつながり、まち協などの活動が活発です。しかし、参加する人が限られている・年配の方が多い・知名度が低いのではという課題があります。

高校生、若者が行きたくくなるような、場所を作っていきたい。市民、職員、市長この3つの距離感が近いというよい面も意見として出てきたので、この強みも活かしていきたいです。



2 班

瓦、菊人形などの伝統文化があり、おまんこ祭がかっこいい、鬼みち祭が素敵という意見が出た一方、地場産業の衰退やアピール力不足で知名度が低いのが課題です。

税金は限られていますが、地域力、福祉サービス、市の職員の一生懸命さでカバーできているのでは！観光資源、地域資源、健康づくり、地域の熱意などを踏まえながら、まちづくりをしていきたいです。



3 班

ハード面の課題が多く、インフラ、公共施設の老朽化、商店が少ないなど。観光資源は乏しいという意見もありましたが、PR出来るものはあります。

施設は老朽化していますが、他のアイデアが生まれやすいのでは。文化など古さを活かしていく。商店が少ないですが、出店できるチャンスがあります。若い人の参加で多世代でのまちづくりを！



4 班

人材、マンパワー不足という意見が出ましたが、人口が増加傾向なので解決できるのでは。道路が狭いことや渋滞について意見が出ました。

人口が増えるにつれ課題も増えてしまっていますが、住民の課題をきちんと把握できています。今ある課題をポジティブに捉えて、若い人がまちづくりに参加していないので、巻き込んでいきたいです。



講評

課題を魅力へ、つまりネガティブなことを反転してポジティブに変えたときのアイデアの中で、今日はそれほど驚くようなアイデアは出ていなかったのではないのでしょうか。しかし、意味がないわけではなく、お互いにどう思っていたかを確認できたのだと思います。これをもっとクリエイティブにしていくには、皆さんにもっとインプットがないとアウトプットが変わりません。インプットしなければ新しいアイデアが出てこないで、ワークショップになりません。各個人が経験・センス・知識・視点・価値観を高め、創発の価値を上げましょう。研修の間に面白い、おしゃれな事例を集め知識を増やし、知識をたくさん持つ人同士が集まることでオリジナルなもの生まれてきます。日本で唯一のオリジナルな計画をつくりましょう。



参加者の感想

- ・福山市でのワークショップでの事例を聞き、自分もF-netの皆さんのように成長したいと思った。
- ・大変勉強になりました。今まで高浜市は20年後消滅自治体ではないことに安心していましたが、それが逆に他の自治体よりも課題と聞いて驚きました。
- ・普段福祉の仕事をしていて、“かっこ良さ”とか“美しさ”を考えてやっていたなかったので、新しい視点を学ぶことが出来ました。
- ・課題を考えながら、まだまだ高浜市のことや市政について知らないことが多いなと感じました。「Yes, and」の大切さも体感して学びました。

次回のご案内

日付 平成26年12月19日(水)
時間 14:30~17:00
会場 高浜市役所第5会議室

地域に出てヒアリングするときのコツを学びます。またこの職員研修メンバーで目指すところを共有します。



studio-L (スタジオエル) は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合振興計画など、まちづくりのワークショップや住民参加型の総合計画づくりなどに携わっている。http://www.studio-l.org

職員研修

みんなが幸せに暮らしていけるために自分は何ができる！

第1回職員研修



今の時代に求められる 行政職員とは？

高浜市では、すべての市民が幸せを感じ、いつまでも住み続けたいと思える高浜市を実現するために、市民一人ひとりが主体的に取り組むことを考えられるような計画をつくっていきます。第1回目となる今回の研修では、studio-Lの山崎亮氏を講師に迎え、今の時代に求められる行政職員についてレクチャーを受けました。高浜市は、人口が増え続けているからこそ、時代を先取りする取り組みが遅れる可能性があることなどの指摘がありました。また、福山市の若手市職員が市民と一緒に福山のまちなか活性化の取り組みをしている事例紹介があり、高浜市の皆さんもこれからの取り組みに向けて気持ちを新たに。そして、高浜市の魅力と課題について話し合いました。

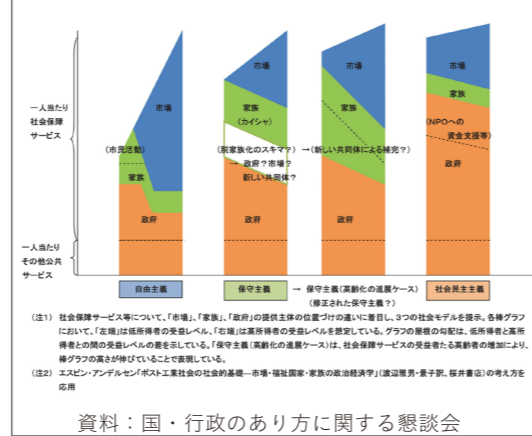
日付 平成26年11月12日(水)
時間 13:00~15:30
会場 高浜市役所第2会議室

プログラム

- 13:00 はじめに
- 13:05 前回のふりかえり
- 13:15 レクチャー
- 14:00 高浜市の魅力と課題
- 15:30 閉会

今の時代に求められる行政職員

消滅自治体が世間で話題になっています。900自治体が危機感を持っています。これは自治体が消滅するだけ、役所がなくなったり役場がなくなったりするだけの話です。役所で働く人は自分たちの仕事がなくなるので危機感を持つ。高浜市は人口が伸び続ける。このような地域は20世紀型の価値観に陥りやすいですが、幸い市長が先進的な未来を見ているから、新しいことに取り組めると思う。今900弱の自治体が高浜より危機感を持ち、皆さんと同世代の人たちが新しいことに取り組まないと、自分たちのまち・職がなくなる、というくらいの危機感を持って21世紀型の事業を生み出そうとしています。内閣府で、国・行政のあり方に関する懇談会というのがあり、「市民参加は当たり前になっている、参加なくして自治体の未来はなし」という話をしました。当たり前になりつつある中で、行政側の態度というのがとても大切です。大きな行政体にするか小さな行政体にするか、結局は、政府も民間もある程度のことをやることになる。しかし隙間が生じる。自治会や町内会の力が相対的に弱まっているので、全国で「自治基本条例」などを作ってそれぞれの小学校区ごとに、「まちづくり協議会」を立ち上げていますが、メンバーの高齢化がどこも課題に。同世代の人だけで構成されたまちは長続きしない。**若い人を巻き込むには、自分が参加したいと思えるような魅力的な活動でなければなりません。**プロジェクトにより仲間を増やすことが出来る。これが高齢社会を生き抜くのにとても大事な社会資本・ソーシャルキャピタルになる。お金では買えない幸せや、人生を充実させる機会になっていくのだらうと思います。



事例紹介 福山市 F-net の取り組み

広島県福山市のまちなか活性化のプロジェクト。市役所の若手職員が研修を受け、市民ワークショップのファシリテーターを務めました。彼らのチーム名はF-net。最初は市民の中に入ることが怖かったメンバーですが、ワークショップを重ね、市民と一緒に活動していくことで、役所の職員も市民として参加し、徐々にチームが形成されていきました。F-netのメンバーは、面白い活動の視察に行くなど、各地とのつながりが生まれています。



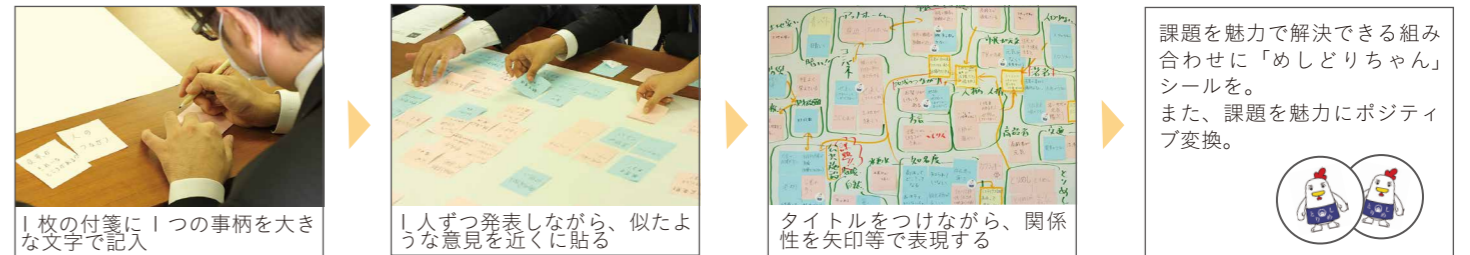
ブレイクタイム

ワークショップとは、本来作業場という意味です。参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学びあったり創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルです。一人ひとりがもつ経験や知識、価値観やセンスなどを持ち寄り、参加者同士が相互にやりとりすることで、学びや発見、創造があります。ワークショップの話し合いのルールとして大切なものに「Yes,and」があります。相手の意見に賛成し、さらに提案するというもの。今回のブレイクタイムでは、この「Yes,and」を体験しました。まずは、2人1組になって、誘う側と誘われる側になり「no,but」を体験。食事や遊びに誘いますが、何かと理由をつけて断られてしまいます。それでもめげずに誘い続けますが、なかなか話が進展しません。続いて、「Yes,and」を体験。誘ったことにさらに提案が追加されて、どんどん話が進展していきます。映画に誘ったところ、最後は焼き肉を食べに行こうというところまで話が進展したところもあり、楽しく話ができたと感想が聞かれました。「Yes,and」をこころがけて話し合いをしましょう。



ワーク「高浜市の魅力と課題」

地域福祉を考える上で、高浜市の魅力と課題をまとめました。1枚の付箋に1つの意見を大きくわかりやすく記入します。テーブルの中で自分の書いた付箋の内容を発表します。模造紙に貼りながら、似たような意見は近くに貼っていきます。グループに名前をつけて線で囲み、同じようなものが一目でわかるようにします。また、グループ同士の関係性を矢印等で表現し、関係性を表す言葉を追加していきます。そして最後に課題をポジティブ変換しました。



魅力と課題のまとめ

魅力として意見が多くあがっていたのが、とりめしや瓦など観光資源があること、まちがコンパクトであることから、まとまりがある、人口が増えている、人が温かいなどがありました。一方で課題としては、道が狭い、交通手段が車に限られるなどの意見が多くなっていました。以下の図は、意見の多さによって円の大きさを変えています。また、環境や地域のつながり、観光資源は魅力と課題の両側面で意見が出ていました。

